

2019年3月25日

ICT・デジタル技術を活用した「ケアマネジメントサイクル」の実践

SOMPOケア株式会社（本社：東京都品川区／代表取締役社長 遠藤 健、以下 当社）は、当社が運営する介護付きホームにおいて、ケアプランの作成や介護記録にICT・デジタル技術を活用することで、確かなエビデンスに基づいた「ケアマネジメントサイクル」を実践する環境が整いましたのでお知らせします。

1. 背景と目的

当社は、ご利用者お一人おひとりに合わせた最適な介護サービスとともに、「たとえ介護が必要になっても、自分らしい暮らしを続けられる環境」を提供し、ご利用者の自立支援に貢献することを目指しています。それを実現するためには、ご利用者の心身状態の把握と生活課題の分析（アセスメント）に基づくケアプラン作成、計画に沿った介護サービスの提供、介護サービスを実施した記録を活用したモニタリング、再アセスメントによるケアプランの見直しという「ケアマネジメントサイクル」が重要です。今後、要介護者数の増加と介護人材の不足が深刻化することが見込まれるなか、ICT・デジタル技術を活用したケアマネジメントサイクルを継続的に実践することで、介護職員の業務負担軽減と最高品質の介護サービス提供に繋がっていきます。

2. 概要と導入効果

当社が運営する全国約280か所の介護付きホームでは、ケアプランを作成するためのアセスメント管理システム、計画に沿ったサービスを提供するための介護スケジュール作成システムを導入し、さらに、効率よく正確に分析するための介護記録システムを加えた一連のケアマネジメント業務に関するシステムの整備を進めています。

2018年度は、当社の介護付きホームブランドの1つである「SOMPOケア そんぽの家」約160ホームに、スマートフォンによる介護記録システムを導入しました。当該システムでは、介護職員の一日の業務スケジュールだけでなく、ご利用者への介護サービスの実績をリアルタイムで確認することができます。また、サービス実施後の記録はスマートフォンの画面上で行い、タッチ操作だけでなく音声入力も可能なため、スマートフォンに慣れていない介護職員でも、詳細に情報を入力できます。その結果、介護記録の手書き作成やその他の書類への転記作業が不要になり、また、記録の集計や分析に費やす業務負担が軽減され、160ホームで年間約20万時間の業務効率化となる見込みです。書類を保管する場所も大幅に縮小され、職場環境の向上と保管コストの削減に繋がりました。

3. 今後

介護付きホームに続き、サービス付き高齢者向け住宅や在宅介護サービスにおいても、各種システムを導入し、より効率的かつ正確なケアマネジメントサイクルの実践を進めていきます。また、その他のICT・デジタル技術も積極的に活用し、介護現場の生産性向上と介護サービスの品質向上を実現しながら、最大見込み 10 億円の経費削減を原資として、介護スタッフの処遇改善を目指します。

以上

